

灯火のつどい シナリオ例

【第1部 迎え火の式】(静)

(開会の言葉)

※BGM:遠き山に日は落ちて♪

司会 みなさん、こんばんは。明るかった空も、夜のおとずれとともに、今ではすっかり遠く西の空に沈んでしまいました。自然の家での研修も最後の夜(1日目の夜)を迎えました。これまでの活動を振り返り、新たな明日への活力を燃やし、ともに、私たちの友情の輪を広げるため、ただいまより「ともしびのつどい」を行います。それでは、これから迎え火の式を行います。

(営火入場)

司会 営火入場 ※入場終了後 BGM fade-out

※営火入場時は、親火だけトーチに火をつける。

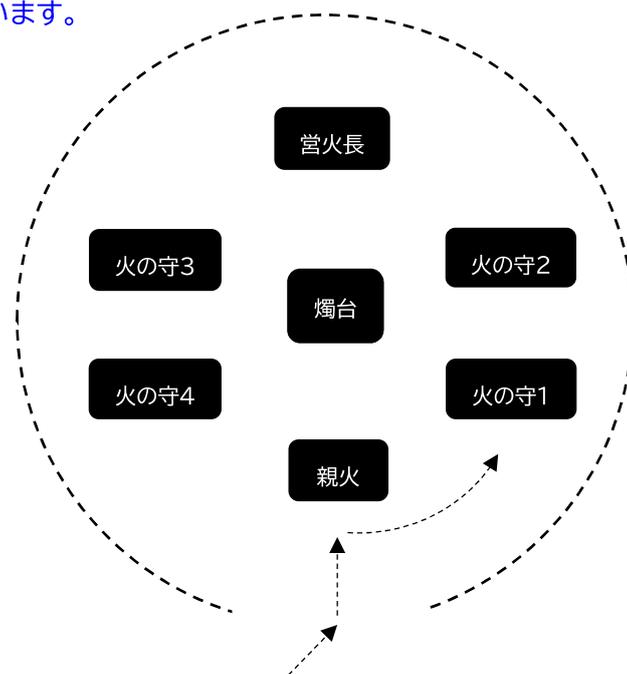
その他はトーチを持って入場

※親火を先頭に反時計回りに1周する。

※営火長・火の守は自分の場所で止まる。

※親火・営火長・火の守がポジションについたら次に進める。

※燭台(しょくだい)から2m以上離れて立つ。
(近すぎると危険)



火の守1・火の守2・営火長・火の守3・火の守4・親火(前)

司会 親火は、誓いのことば言葉を述べてください。 ※言葉は各団体で作成してもかまわない。

親火 私たち研修生()名は、ここ大隅青少年自然の家において「ともしびのつどい」を行うことになりました。ともに鍛え、学び、また 寝食をともにする生活の中で、今まで知らなかった友だちの素晴らしい姿を発見し、新しい友だちもでき、友情を深めることができました。今夜は、自分の姿を見つめ直すとともに、心に残るつどいにしたいと思います。

司会 親火は、火の守へ呼びかけながらロウソクの火を分けてください。」

※親火は、火の守1→火の守2→営火長→火の守3→火の守4の順で火を分火する。

※親火が動き、その他は親火が来るのを待つ。

① 親火が火の守1の前に移動

親火「健康を大切にするために」 ※火の守1へ分火

火の守1「私たちは、常に心と体を鍛え、どんな苦しみにも負けない強い心とからだの持ち主になるよう努めます。」

② 親火が火の守2の前に移動

親 火:「一日一日全力をつくすために」 ※火の守2へ分火

火の守2:「私たちは、大きな希望と目標を持ち、一日一日の生活を反省し、いつも全力をつくす人になるよう努めます。」

③ 親火が営火長の前に移動 ※営火長へ分火(呼びかけはせず、火をつけるだけ)

④ 親火が火の守3の前に移動

親 火:「学校や地域社会の発展に役立つために」 ※火の守3へ分火

火の守3:「私たちは、いつも他の人々のことを考え、明るい学校、住みやすい地域社会をつくりだすよう努めます。」

⑤ 親火が火の守4の前に移動

親 火:「すばらしい友情のために」 ※火の守4へ分火

火の守4:「私たちは、うれしいときはともに喜び、苦しいときには助け合い、励まし合いながら、すばらしい友情を育てます。」

⑥ 親火はもとの場所へもどる。

司会 営火長は迎え火の言葉をお願いします。 ※言葉は各団体で作成してもかまわない。

(営火長)大隅の大地を照らしていた太陽は、はるか遠く水平線の波間に沈み、この大隅青少年自然の家も静かな夜を迎えようとしています。

遠い昔の人々は昼間、狩りや漁をして暮らしていました。夜になると満点に輝く星をながめながら、たき火を囲んで語り合い、また、儀式やつどいを行っていました。

その頃の人々にとって火は、自分たちを守る武器であり、闇夜を照らす明かりであり、寒さに震える体を温めてくれるものでありました。

火は人類の歴史とともに発展し、今日の文明を築き上げてきたとも言えましょう。

これから始まる「ともしびのつどい」は、闇夜に足元を照らし、これから進むべき道しるべとなってくれるでしょう。

私たちにこれからの生き方を考えさせ、教えてくれる「ともしび」が、一人一人の心の中でいつまでも燃え続け、楽しい思い出となるよう祈って、迎え火の言葉とします。

(点火)

司会 ただいまの営火長の言葉、先ほどの親火の営火にささげる言葉、そして火の守のみなさんの誓いの言葉をもう一度思い出してください。これらの言葉を参加者みなさんの誓いの言葉としてトーチにたくし、中央の燭台(しょくだい)に点火したいと思います。

司会 営火長は点火の宣言をお願いします。

営火長「点火」

※親火・営火長・火の守で燭台(しょくだい)に点火

※ろうソクの火は上から下、奥から手前の順につける。安全に十分気をつける。

司会 係のみなさんは、ろうソクの火を、周りの人に分けてあげてください。

※係は回れ右をして、一番近い人に火を分ける。火をもらった人は左右の人に火を分ける。

※係は元の場所にもどる。

(参加者全員のろうソクに火がついたら)

※BGM:燃えろよ燃えろ♪

司会「みなさん、ろうソクの炎をしばらく見つめてみましょう。」

司会「私たちには大きな夢があります。ところが、私たちの人生の行く手は、楽しく愉快なことばかりではありません。苦しいことも、悲しいことも、時には深い悩みに打ち沈むこともあります。しかし、どんなに苦しくても、明日に夢が描けるなら苦しみの中でも生きていくことができるものと思います。みなさんは、どんな夢をもっていますか。自分の夢を胸いっぱい膨らませながら、未来に向かってたくましく生きていきましょう。」 ※BGM fade-out

司会「それではみなさん、ろうソクの火を吹き消してください。」 ※燭台の火だけを残す。

司会「係のみなさんは退場してください。」 ※係は親火を先頭に退場する。(反時計周り)

司会「さあ、みなさん！ 今宵ひととき、歌ったり、踊ったり、ゲームをしたりして大いに楽しみましょう。」

【第2部 交歓の集い】(動) ※団体で事前に準備する。(レクリエーションや歌などの発表)

司会「これから楽しいレクリエーションをはじめます。」

【第3部 送り火の式】(静)

(開会の言葉)

司会「これから送り火の式をはじめます。係のみなさんは、迎え火と同じ位置についてください。」

司会「営火長は送り火の言葉を述べてください。」

※BGM:今日の日さようなら♪

(営火長)

私たちは、「ともしびのつどい」のこのひととき、ともに歌い、ともに笑い、友情を深めることができました。

ろうソクの火は消えても、この友情の炎をいつまでも心の中に燃やし続けていきたいものです。

最後に、私たちをばげまし、なぐさめ、見守ってくれたこの自然に感謝し、今夜の「ともしびのつどい」を閉じることにします。

※BGM fade-out

司会「大いに楽しんだ『ともしびのつどい』もいよいよ終わりに近づいてきました。今日の一日は、私たちにとって楽しく実り多い思い出の1ページを残してくれました。」

司会「最後に『 』を歌って、『ともしびのつどい』を終わりたいと思います。」 ※省略可

司会「係のみなさんは、燭台(しょくだい)の火を消してください。」 ※手前から消す。

※やけどに気をつける。

司会「係のみなさんは、退場してください。」 ※係は親火を先頭に退場する。(反時計周り)

司会「これで『ともしびのつどい』を終わります。」

※ろうソクの消火を確認する。

※終了後、燭台・ろうソクの後片付けを行う。

はじめる前の準備

★自然の家

- ① ブルーシートを中央に置き、その上に燭台を移動する。
- ② 燭台(しょくだい)及びろうソクの準備をする。(ろうソクの先を削り、燭台に固定する)
- ③ トーチのろうソクを固定する。(6本)

★利用団体

- ① 売店で個人用のろうソクを受け取っておく
- ② 係(親火・営火長・火の守4人)以外の参加者で燭台を囲んで大きな円をつくる。
※ 係が入場する場所を少し開けておく。
- ③ 放送や係の準備ができたなら、進行の合図で開始。
※ 事前に係のリハーサルを行うと本番がスムーズに進行できる。

★利用団体で準備するもの

- 個人用ろうソク(人数分・売店で受取り)
- 衣装(必要に応じて) BGM用 CD(必要に応じて)

★自然の家で準備するもの

- 手燭(人数分) トーチ(6本) ライター
- 放送機器 BGM用CD(シナリオ上の3曲)